

さまざまな障がいのある子どもたちが
使いやすいトイレブースや設備を採用。



アール型扉のトイレブースを採用した2Fのトイレ。左側が女性用で、右側が男性用、奥が多機能トイレとなっている。



省スペースを実現しているアール型扉のトイレブースは、介助もしやすい空間である。

島根県安来市にある障がい福祉サービス事業所 櫻苑では2000年から障がいのある人に向けて居場所と働く場所を提供し、支援を行ってきました。地域の大人に向けたサポートを子どもたちにも広げ、2012年から、障がいのある児童・生徒が通える放課後等デイサービスを開始。以前使っていた空間が手狭になったため、2017年4月には放課後等デイサービス棟を新築し、さらなる環境整備に努めました。



右が新築した放課後等デイサービス棟。左は障がい福祉サービス事業所。

昇降のできる調理台や洗面カウンターなど車いす利用の子どもにもしっかりと対応。

放課後等デイサービスとは、普段は学校に通っている障がい児に対して、放課後や夏休みなどの長期休暇中に、その活動を支援する取り組み。生活能力向上のために必要な訓練を行ったり、創作活動、体験学習、地域との交流の機会などを提供しています。安来市では唯一の施設であり、地域に必要とされているため、既に定員いっぱい。養護学校7校、一般の学校7校の特別支援学級の、小学生から高校生までの子どもたちを施設に送り迎えしています。

新しい施設には、上下昇降のできる調理台や洗面カウンターを設けるなど、車いすを利用している1割程度の子どものたちにも配慮。限られた空間の中で、一人ひとりの利用者をイメージしながら作られたトイレは、スタッフが介助しやすい動線にもなっています。隅々から愛情の伝わってくる施設が、子どもたちの明日を育みます。



1Fのトレーニングルームに設けられた、車いすでも使いやすい昇降式の調理台。



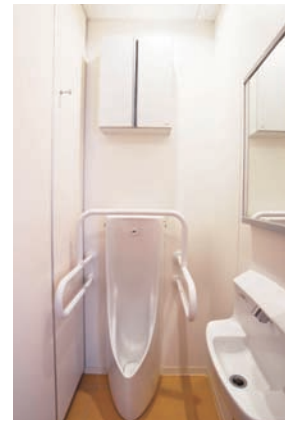
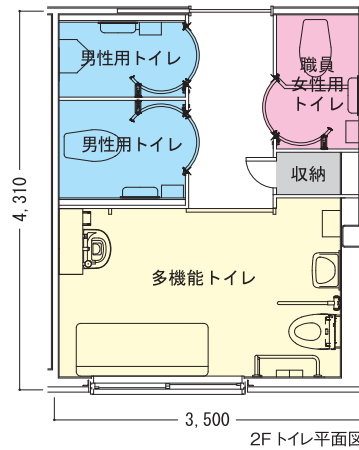
廊下には高さの異なる手洗器や、車椅子でも使いやすい昇降式の洗面カウンターが設置され、どんな子どもでも使いやすいように工夫されている。

放課後等デイサービス 櫻苑

- 竣工年月 / 2017年4月
- 所在地 / 島根県安来市植田町226-10
- 施主 / 社会福祉法人 真和會
- 設計 / 有限会社角森一級建築士事務所
- 延床面積 / 299.42m²
- 定員 / 35名

アール型扉のトイレブースや前方ボード、多目的シートなどが排泄動作をサポート。

トイレには、限られた空間を有効に活用できるアール型扉のトイレブースを採用。介助のためにスタッフがいつしよにトイレに入る場合もあり、そうした場合にも楽に開閉することができます。2Fの多機能トイレには、座位を保持できる前方ボードや、オストメイトである子どものための設備も用意。また、多目的シートは、おむつ交換以外に、立位をとれない子どもが腰掛けて衣服を脱ぎ、大便器へ移乗するための用途としても使われています。



男性用トイレの小便器ブース。



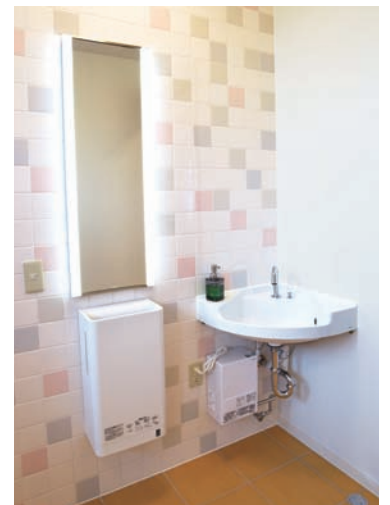
2Fに設けられた多機能トイレ。転倒のリスクを軽減し座位を保持する前方ボードや、I型手すりなどが設置されている。



多機能トイレには、オストメイト対応設備や多目的シートも設置。



1Fの多機能トイレにも多目的シートのほか、はね上げ手すりやL型手すりを設置。



1F多機能トイレ内にある手洗器。壁のタイルが温かみを演出している。

Voice 理事長さんからの声

障がい者の日中の居場所づくりが出発点でした。



社会福祉法人 真和会
理事長
永島 隆彦さん

櫻苑の出発点は、障がいを持っている人の日中の居場所を作りたいという想いと、学校を卒業しても行き場のない人たちに、働く場所をなんとか提供したいという想いでした。トイレの空間は、使い勝手はもちろん大切ですが、見た目の良さも使う人にも感じてもらって、いい気持ちになってもらえたらうれしいです。

Voice 所長さんからの声

ニオイやきれいなトイレ空間にこだわりました。



櫻苑
所長
岩本 真友水さん

作業所開設時から、少しでも利用者さんが快適に過ごせるように施設の衛生面に気を配り、ニオイやトイレには特にこだわっていました。「夢のある作業所」にしてほしいと設計をお願いし、きれいな環境づくりを推進。新棟ができて、利用者さんの人生設計のための将来像がさらに明確になり良かったと思います。

Voice 統括リーダーからの声

一人ひとりの利用者に寄り添う視点があります。



櫻苑
統括リーダー
石倉 玄教さん

一人ひとりの利用者さんの送迎のしかたなど細かい点も、できるだけ親御さんのご要望に応えるようにしています。アール型扉のトイレブースは、実際に所長が米子の空港まで見に行き決めてました。撮影をしていたら不審者に間違えられるハプニングもあったようですが(笑)、その甲斐もあって良かったです。

Voice 設計担当の方からの声

「おんぼろと」した相談が快適な空間を生みました。



有限会社角森一級建築士事務所
代表取締役
角森 建夫さん

施設の衛生面を考えて、きれいで安心できる清潔な環境づくりに努めました。トイレの器具は、お施主様と大阪にあるTOTOのテクニカルセンターまで行き、その場で色合いなども確認しながら決めました。「おんぼろと」…出雲の方言で「穏やかに」みんなで相談しながら、明るく温かな環境ができたと感じています。